

令和7年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名: 南薩地域振興局農林水産部農政普及課

課題名①	集落営農組織の活動支援(南薩地域を支える担い手の育成)	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	4	2			
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	2	4			
活動体制・ 活動方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	4	2		・地域住民の意見をまとめる中で、関係機関の助言等が行われて良かった。	・引き続き支援していく。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	2	4			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	1	5			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果があったか	1	5		・新品種の取組が活発に行われている。 ・直播技術、再生二期作の確立が進んでいる。 ・生産者の利益向上が期待できる。	・引き続き支援していく。 ・今後も話し合い活動の中で、中耕培土の実践支援や新品種導入における課題把握、解決策支援を行っていく。
活動の 波及性 と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	1	5			
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか		5	1		

令和7年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 南薩地域振興局農林水産部農政普及課

課題名①	集落営農組織の活動支援(南薩地域を支える担い手の育成)	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	7			・大豆の生産性向上、営農組織の活性化は重要なことであるので、課題選定は適当である。	・大豆の生産性向上について、関係機関と連携しながら、引き続き支援していく。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	5	2		—	—
活動体制・ 活動方法	③関係機関と連携して活動しているか	2	4	1	・市との共有はあるが、JAとの情報不明。	・個別支援については、個別経営相談会、栽培技術指導を行っている。引き続き支援していく。 ・地域住民へ働きかけ、協力依頼する等労働力確保に向けて活動している。引き続き支援していく。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	3	4			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	3	4			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果があったか	1	6		・減肥により収量が向上した点は評価します。データ実証を重ねていって、地域への普及をお願いします。 ・減肥の実証を継続して、栽培技術の確立・普及に取り組んでほしい。	・引き続き支援していく。
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	1	6			
活動の 波及性 と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	3	4		・地力窒素の分析が2日程度で可能になったことは、適正施肥、コスト低減につながることから、その周知にも力を入れていただきたい。 ・ドローンの操縦技術の向上対策をやってほしい。 ・経営体の労働力確保対策、経営支援を強化する取組等の提案がほしい。	・地域と連携した行事開催や運営に対して地域住民からの助言等の事例を提供していく。 ・経営相談会で経営診断結果を基にした助言や中長期営農計画作成支援、労働時間を把握し、作付計画の検討等個別に支援している。
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	3	4			

1 南薩地域を支える担い手の育成

集落営農の活動支援

成果の要約

- 1 集落営農組織に対して、資源点検を基に中長期計画を作成、課題を整理し、農業経営改善ロードマップを見直すことができた。
- 2 集落営農組織の後継者となる若手農業者に対してプロジェクト活動を支援し、栽培技術の向上につながり、組織の大豆単収アップの要因となった。
- 3 話し合い活動により、大豆栽培の基本技術の実践や新品種の導入が図られ、単収向上が期待される。

1 対象

- (1) 川辺地域集落営農組織 11 組織

2 課題を取り上げた理由

- (1) 担い手農家や集落営農組織において、水田の転作や裏作として、大豆やそば等の生産が行われているが、湿害等で単収が低い。
- (2) 高齢化が進み、人材不足が問題となっている。
- (3) 集落営農組織で地域の農地を引き受けているが、中山間地の小区画田が多く生産性が低い。

3 活動の内容及び成果

- (1) 個別相談会の開催

集落営農組織 7 組織に対して、経営の向上を図るため、個別相談会を実施した。組織体制、経営、労働力、栽培技術について課題を整理し、改善策を提案した。



検討内容と改善策検討

検討内容	課題	改善策
組織体制	・会員の高齢化 ・若手が少ない	・会員の加入促進
経営状況	・経営状況が良くない。	・収量向上、コスト削減。 ・栽培品目の検討
労働力	・労働力不足	・若手や雇用者の育成
栽培技術	・収量・品質の低下	・適期管理の徹底

個別相談会の実施

- (2) 中長期計画作成支援

集落営農組織に 1 組織に対して、ヒト、トチ、モノ、カネを把握する経営資源を点検、課題を整理し中長期経営計画を作成した。計画をもとに農業経営改善ロードマップの見直しを行うことができた。



中長期計画作成の支援

	課題	改善策
ヒト	・5年後:平均年齢67.6歳 ・10年後:平均年齢72.6歳 高齢化、会員の減少が著しくなる 会員の確保 経営の引継ぎ必要	・新組合員の加入促進 ・若手やオペレータの育成 ・後継者確保検討
トチ	・地域でも高齢化により借地が増える予想	・農業機械フル活用での営農確立 ・農作業日誌等のアプリを活用した労働の把握 や適性な労働力に合った面積の検討
モノ	・現状では耐用年数を過ぎた機械が2/3と多い	・毎日の点検に心がけ、機械担当者の設置 ・計画的な設備投資検討
カネ	・〇年後まで借入金返済額が多い	・経営内容の把握(部門別管理、資金繰り等) ・農産物の生産量増、低コスト、品質向上

資源点検による課題整理

(3) 若手農業者の育成支援

個別相談会の課題整理で、組織の高齢化により後継者の確保が必要となっている。1組織の若手雇用者に対して、栽培技術研修会やプロジェクト活動の支援を行った。プロジェクト活動では大豆栽培における難防除雑草の除草体系の検討を行った。除草剤を組み合わせ、実証区を設置し、2回の茎葉体系が有効であると実証された。また、青年農業者会議でプロジェクト発表を行った。プロジェクト活動を行うことで栽培技術の意欲向上につながり、組織の大豆単収については2倍となった。



栽培技術研修会を開催

(4) 大豆の収量向上支援

ア 基本技術の励行（中耕培土の実践）

大豆の栽培については、大豆播種後、約20日後に中耕培土を実施するが、ほとんどの組織が行っていない。単収向上のため1組織が中耕培土を実施し、収穫調査の単収が昨年の平均単収の1.4倍となった。



中耕培土を実施

イ 話し合いによる大豆の新品種導入

川辺地域の集落営農組織では大豆を76.6ha栽培しており、面積割合では31.5%と最も多く栽培している。近年、単収が減少している。話し合い活動により、難裂莢性品種「そらみのり」を試験的に導入した結果、収量調査では、単収が4倍となった。しかし、小粒が多いことから、栽培過程における課題抽出・検討や販路等について検討する必要がある。



そらみのりの現地検討

4 今後の課題

- (1) 集落営農組織の経営安定
- (2) リーダーの世代交代による経営継承
- (3) 集落営農組織の話し合い活動の充実、実践

5 担当した普及職員（〇はチーフ）

〇木村，基山，立和田，内門，潟山

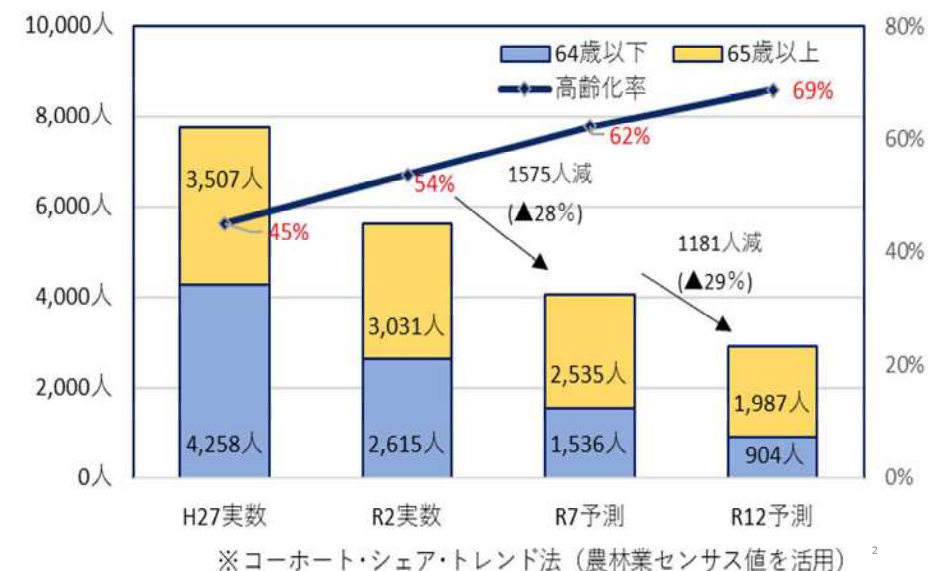


集落営農組織の活動支援

南薩地域振興局農政普及課 基山淳子

1 管内の農業者の状況

◆ 基幹的農業従事者数と高齢化率（南薩地域）

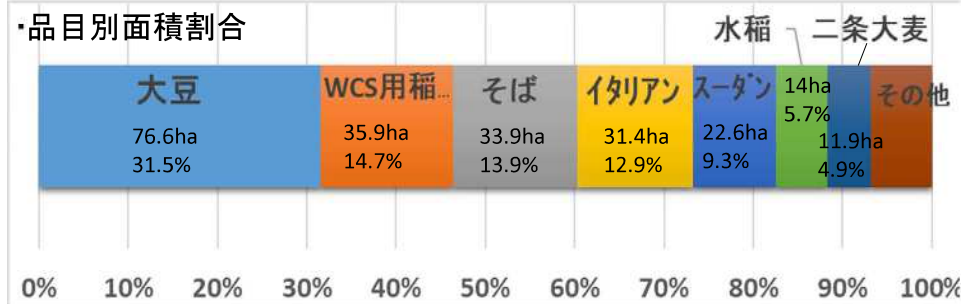


3 南九州市川辺地域集落営農組織の概要

・集落営農組織（4法人，7任意組織）

組織数		1	1
うち認定農業者		4	
会員数(名)		263	
従事数(名)		60	
経営耕地面積(ha)	畑	4	3
	水田	12	6

川辺地域田畑面積の
17.4%



2 管内の集落営農の概況

R6

市 名	集落営農			
	集落営農組織	集落営農法人	その他	
枕崎市	1	0	1	0
南さつま市	4	2	1	1
南九州市	16	7	6	3
合 計	21	9	8	4

4 集落営農組織における支援状況

- ・個別相談会
- ・栽培技術研修会
- ・個別組織の課題解決支援

【個別経営相談会】

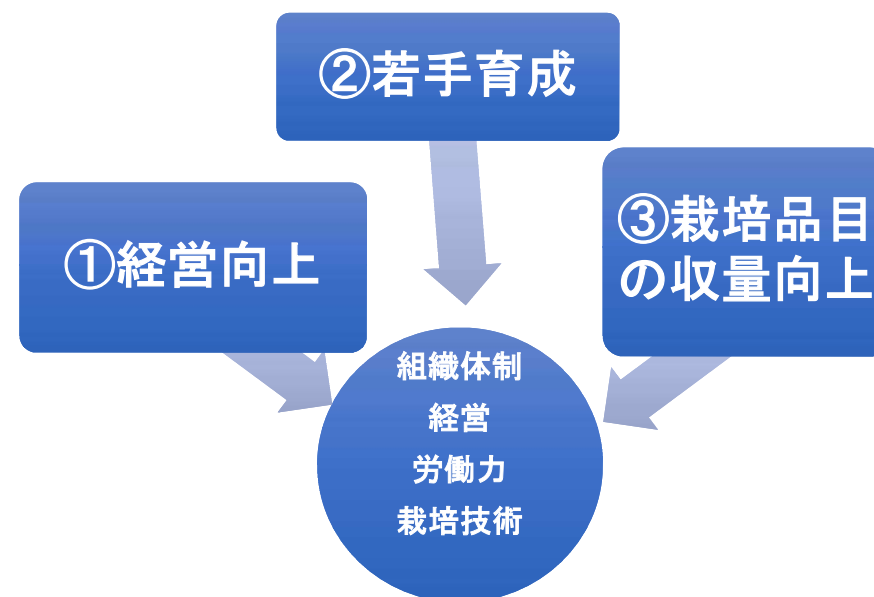
4法人, 3任意組織参加



検討内容	課題
組織体制	・会員の高齢化 ・若手が少ない
経営	・経営状況が良くない
労働力	・労働力不足
栽培技術	・収量・品質の低下

5

課題抽出



6

5 普及計画の位置づけ

普及計画

- ・南薩地域を支える担い手の育成

【集落営農の経営力向上支援】→ ①経営向上

【青年農業者の育成支援】→ ②若手育成

- ・南薩地域の水田営農確立とニーズに応じた
水稲の生産拡大

【栽培技術支援】→ ③栽培品目の収量向上

6 関係機関との役割分担による支援

集落営農支援チーム

機 関	主な支援内容
南九州市	・総括(連携・情報収集等) ・集落の合意形成活動支援等
南さつま農協	・生産・販売情報等の収集・提供等
農政普及課	・話し合い活動, 組織化支援 ・生産技術・経営改善支援

① 集落営農組織の経営向上支援 中長期計画作成支援

資源点検表の作成

例		設立時	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		和暦 H00	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
		西暦	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
ヒト (年齢)	A男		65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76
	B子		70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81
	オペ等労力合計(人)													
トチ (面積)	農地			4,000					5,000					5,000
	作業受託													
	経営面積計													
モノ・品目 (面積)	水稻			500					500					500
	大豆			900					1,000					1,200
	作付面積計													
モノ・資産 (年数)	トラクター		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	田植機		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
カネ	総収入		18,500	18,900	20,000				23,000					20,000
	当期純利益		2,000	2,000	3,000				3,500					3,000
	長期借入金返済		1,000	1,000	2,500				1,500					1,000

② 若手育成支援

若手雇用者の育成支援

(1) 栽培技術研修会の実施



水稻栽培講習会開催



大豆栽培現地検討

課題の整理

課題	改善策
ヒト ・5年後: 平均年齢67.6歳 ・10年後: 平均年齢72.6歳 高齢化, 会員の減少が著しくなる 会員の確保 経営の引継ぎ必要	・新組合員の加入促進 ・若手やオペレータの育成 ・後継者確保検討
トチ ・地域でも高齢化により借地が増える予 想	・農業機械フル活用での営農確立 ・農作業研修会を開催して若手への労働
モノ ・高齡化が進み後継者の確保・育成が重要 定例会で後継者の確保について随時話し合い	行
カネ ・(金繰り等) ・農産物の生産量増, 低コスト, 品質向上	金繰り等) ・農産物の生産量増, 低コスト, 品質向上

農業経営改善ロードマップを見直し

(2) プロジェクト活動支援

課題名 大豆栽培における難防除雑草の除草体系の検討

○川辺では, 難防除雑草の侵入が問題化



○帰化アサガオ類等に有効とされる除草剤を組み合わせることで実証区を設置, 雑草抑制程度を評価する

区名	土壌処理剤	除草剤1	除草剤2
試験区1	ブロールプラス	散布7/31 アタックショット	散布8/1 パワーガイザー
試験区2	ブロールプラス	散布8/1 パワーガイザー	散布8/8 プリグロックスL
試験区3	ブロールプラス	散布8/5 パワーガイザー	
試験区4	ブロールプラス	散布8/8 パワーガイザー	8/17 大豆バサグラン



○まとめ

2回の茎葉処理剤体系は有効で8月までの除草が重要

○青年農業者会議でプロジェクト発表



青年の声
プロジェクトのすすめ方が理解できた。
今後も問題意識を持って活動したい。

- ・プロジェクト取組 技術の向上・栽培技術へ意欲アップ
- ・組織の大豆単収**2倍** 単収アップの要因の1つ

13

③ 栽培品目(大豆)の収量向上支援

現状



収量低下の原因

- ・雑草繁茂
- ・青立ち現象
- ・高温による葉焼病
- ・台風襲来による滞水や株の倒れ

14

実践1 基本技術の励行 中耕培土の実践

播種 7月下旬 → 発芽 → 中耕培土 8月下旬

中耕培土を実施する組織がない

中耕培土が良い生育を促す

- ・株元に土を寄せることで、新たな根を生むことになり、良好な生育となる。
- ・畝を形成することで、表面排水が良好。
- ・生育期の雑草防除。苗立ちをよくし、倒伏防止。



中耕培土作業

15

根の様子

中耕培土あり

中耕培土なし

10/2調査



◎根の発育が良好！！

土寄せで、地表面から地中深くまで根を張り、細根の量も増加

収量調査

品種	粒重 (kg/10a)				屑粒重 (kg/10a)
	大粒	中粒	小粒	計	
フクユタカA1	14	53	54	121	40

前年の平均単収の**1.4倍**

16

実践2 話し合いによる難裂莢性品種「そらみのり」の導入

難裂莢性品種「そらみのり」とは（農研機構より）

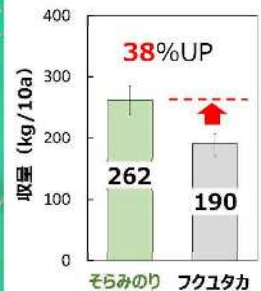
特徴

- ・葉焼病抵抗性
- ・難裂莢性
- ・多収性

「そらみのり」の草姿



生産者ほ場における
現地実証試験



5 試験平均
(東海、近畿、九州)
注) エラーバーは標準誤差を示す。

17

大豆新品種の導入・現地検討会の実施



・そらみのりを試験的に栽培
(話し合い活動)

・川辺地域に6集落営農組織2農家
42.4ha導入



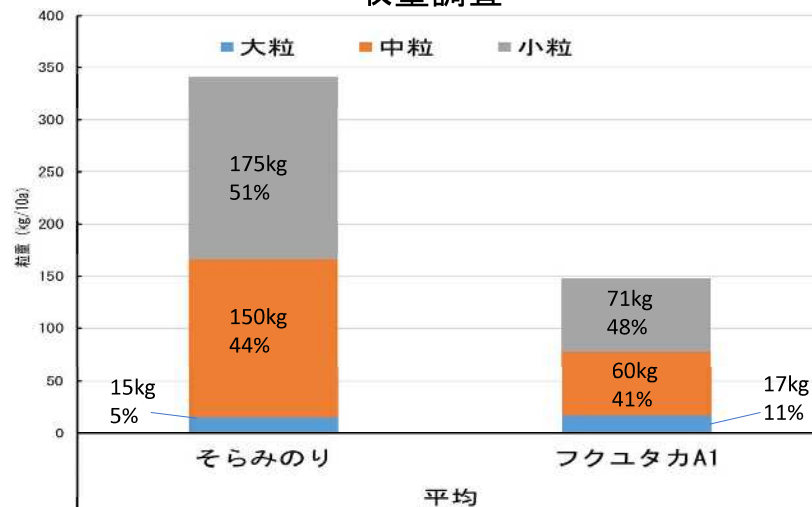
そらみのりの現地検討



栽培状況聞き取り

18

収量調査



組織の声: そらみのりは小粒が多いが莢がたくさんあり, 収穫に期待

課題: 中粒, 小粒が多く用途が限られる

19

7 成果

- ① 経営向上支援
集落営農資源点検を活用した中長期計画作成により課題が明確になり, 農業経営改善ロードマップを見直した。
- ② 若手育成支援
プロジェクト活動により栽培技術向上の意欲につながった。
大豆単収アップの要因の1つとなった。
- ③ 大豆の収量向上支援
中耕培土の実践・新品種の導入により単収向上が期待される。

20

8 今後の課題

- ① 集落営農組織の経営安定
- ② リーダーの世代交代による経営継承
- ③ 川辺地域集落営農組織の話し合い活動の充実

